

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL (3404) 7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

『家で過ごしたい』をみんなで支える



蛭田さんの隣で、ハイヒールを履いたミツさんが、昔話を語ります。

外苑診療所の訪問診療

前月号で紹介したヘルパーさんは、在宅患者さんにとって介護の
かなめです。一方、医療のかなめは、訪問診療です。今月号は、在
宅支援診療所として在宅療養を支えている外苑診療所で、訪問診療
を担当する医師と看護師取材しました。(編集部)

『元気が戻りました』と訪問先で

「こんにちは、ミツさん！お元気かしら」
「そうね、なんとか食べてるわねえ。」
益子ミツさんは新宿区在住の94歳、2年前から外苑診療所の訪問診療を利用しています。5年前に慢性硬膜下血腫をした後、一人では外出できなくなり、認知症も進んだため、いまでは長女の金高みどりさん夫妻が同居して、ミツさんの面倒をみています。
訪問診療は通常月に2回、車で各家庭に伺っていただきます。益子さんに着くとまず、蛭田看護師が血圧・脈拍・体温などを測り、次に富樫医師が、ミツさんとご家族に、何か変わったことではないか、食事はきちんと取れているか、便は出ているか、などを聞きながら、手早く聴診・打診など全身の診察をしていきます。「これで問題がなければ処方箋を

置いて帰るのですが、なるべく時間を作って患者さんたちとおしゃべりするようにしています」と富樫医師。
この日は、ミツさんが、富樫医師が履いてきたピンクのハイヒールを見つめ「まあ先生のくつ素敵ね！私もこの前まで社交ダンスをしていたのよ！」と言っていると、早速蛭田看護師がミツさんに靴を履かせ、昔話に花が咲きます。「やっぱりワルツが好きだわ！」と楽しそうにミツさん。

の間は話が全然通じなかったものね(笑)」と蛭田看護師。みどりさんも「本当に助かりました、すぐに気づいて入院させてもらえて。やっぱりあのままお家でみて、悪くなっていたら大変でしたから。」と感謝していました。
富樫医師によると、お年寄りにはなにか病気になるたとき、その症状は、どこが痛い苦しいというストレートなものではなく、会話がかなりあわない、食事がなかなかとなく減ったというような形で現れることが多いそうです。
「でも、このような様子は、また認知症が進んじやったかな？とか、ちょっと夏ばてかしら？程度に軽く思われ見逃されがち。特にあまりベッドから動かない患者の場合、会話やしぐさに重大なサインが隠されていることがあります。それを

ご高齢の方で、自宅に退院することの不安が多いのは、また具合が悪くなったらどうしたらいいの？。介護しきれなくなったらどうしたらいいの？。ということですね。また、ご高齢の方が入院しづらくなっている様子もよく耳にします。

外苑診療所では、いまま渋谷区・新宿区を中心に、約150人の在宅患者さんの訪問診療をしています。利用するきっかけは様々で、代々木病院からの退院患者さんだけでなく、ケアマネさんや地域包括センターからの紹介も多々あります。なかにはご近所同士で紹介なんていうのもあって、「嬉しいですね。私たちの日々の活動が、こんなに患者さんに喜んで頂いているなんて！また頑張らなくては！」(笑) 気の引

断する、その見極めが重要です。
医療相談室では、地域で暮らす方の不安を少しでも軽減できるようなお手伝いをめざし、受診・入院相談はもちろん、退院後も継続してご相談に応じています。外苑診療所訪問診療にかかわるご相談にも対応することになりまして、今後もお気軽にお声をかけてください。

ご相談は代々木病院医療相談室まで

また、介護者の状況もよく理解しているのが、自宅で治療を続けることが介護者の負担につながると思われ、場合にも、医師や看護師と連絡がつくので、安心して自宅療養が送れると、退院後訪問診療を利用している患者様から伺っています。

医療相談室 前佛友子

『代々木病院のバックアップは、訪問診療の強い味方です！』

お話を聞かせてね！」とお話聞かせてね！というスタッフを、みどりさんに手をひかれ、玄関先まで見送ってくれたミツさん。とても元気できてよ！ また素敵な笑顔でした。

重要です。そのような時、検査器材やスタッフが揃った病院がバックにあるのは、本当に助かります。
ミツさんのように娘さんや息子さんが一緒に暮らししてくれている家庭は多くはありませぬ。たいていの家庭は、妻または夫がなんとかがやっている老老介護。日々の小さな相談に乗ってくれる訪問診療と、いざという時頼りになる病院、これらふたつの連携は、これからの地域医療にとって、ますます重要になっていくでしょう。
ご協力頂いた益子さん・みどりさん、ありがとうございました。
「取材を受けるなんて！光栄です！」とお洒落をして待ってくれていたミツさん。これからも患者さんたちの喜びの声を伝えていきたいと思ひます。

手術台

今日の不況・格差社会の元は郵政を初めとする小泉構造改革である

況・格差社会の元は郵政を初めとする小泉構造改革である。自民党をぶっ壊す」という威勢のよさと、刺客を送り込む劇場型選挙に酔いしれて国民は自民党を大勝させた。その反省として今回は民主党に地すべりの勝利を与えたのだろうか▼そうだとすれば、いのだが、地すべりの大勝利はいつの時代でも危なさ・脆さを内包している。勢いとか風に乗った勝利はファシズムに着地した例が多い。今回は自民バツ・民主マルという風に乗っただけだとしたら何も変わらない▼これからは真価を問われるのは民主党ではない。民主党を政権につかせた国民である。生活に密着した公約を即、実行するようせまり、マネーフェストをぶれないように監視し、実行できないなら解散を求めなければならぬ。官僚政治からの脱却も民主責任せではダメだろう。大きな声で引き続き応援しなくてはならない。そのプロセスの中でしか真の民主主義は個人に根付かない。政治への参加は投票で終わりはないのである。(ま)